

2016年度は9人体制で検査室の運営を行い、6月からは健診センターに検査技師を午前中だけパート雇用し、心電図検査も健診センターで実施できるようにした。検体検査と生理検査の部門間でのカバーリング体制が取れるように行った曜日ごとのローテーションも順調に機能した。

出前健康講座には“糖尿病の合併症”と“糖尿病とフットケア”のテーマで参加した。

【検体検査】

2014年6月に導入した免疫測定装置の冷却装置の一部が故障し、多額の修理費用がかかるため数回の交渉を行い、保守契約と絡めて修理を行った。同時に免疫測定装置の試薬経費も見直し測定項目全体で経費低減出来るように運用を検討中である。

2017年2月には病院機能評価の更新審査があり、検査室で指摘されたホルマリン使用時の環境測定などについては適正な運用を検討したい。

2016年度の検体検査数は前年と比べ入院・外来とも若干減少した。

【生理検査】

前年から研修を行ってきた血管エコー検査も2名体制となり、さらに心エコーや甲状腺エコーの研修も開始した。

また、主に心エコー検査を担当する技師で知識と検査技術向上を目的とし、8つのテーマで年間8回の勉強会を行った。

2016年度の検査件数は6月から健診心電図を健診センターで実施するようになり全体の検査件数は減少したが、乳腺エコーやその他の生体検査は増加した。

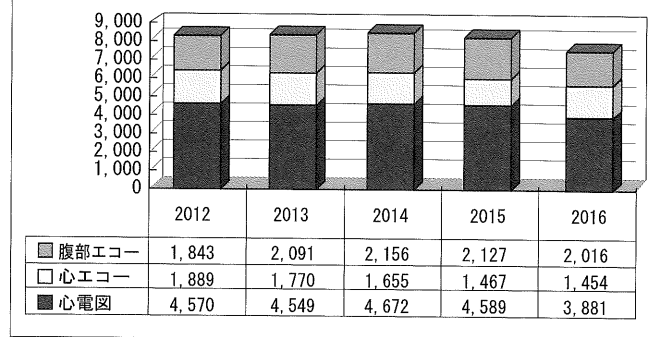
【今後の展望】

前年同様4つのテーマで病棟や外来看護師向けにミニレクチャーを開催した。次年度も企画したい。

検体検査の外注検査は熊本病院との共同契約だが外注単価が見直され、みすみ病院でも外注検査費用が15.8%の増加が予想された。再三の削減交渉の結果10.9%増で次年度の契約を行った。また未保険の外注検査も増加しており、臨床に有用なものを除き出来る限り削減する予定である。

新たな構想として検査室と放射線室では午後からの空き時間を利用して近隣医療施設からの検査を受諾する検討をはじめ、関係各部署の意見を集約し早期に受諾開始出来るように体制を整えたい。

主な生理検査年度別推移



主な検体検査年度別推移

